

小・中学校におけるPBL（課題解決型学習）の取組

予測困難な時代においては、目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出す力が求められており、こうした力を育成するための学びとして、PBL（課題解決型学習）を推進している。

1 現状と課題

- ・総合的な学習の時間に、地域を題材としたふるさと学習等でPBLに取り組んでいる学校がある。
- ・PBLの具体的なイメージが持てず、教育課程上の位置づけに苦慮している学校がある。
- ・PBLの活動内容は設定されているが、課題解決を通して育成を目指す資質・能力が明確になっていない学校がある。
- ・子どもの学ぶ意欲を高めるために、PBLの成果をアウトプットし、その取組についてフィードバックする場の設定が必要である。

2 今後の取組の方向性

地域の多様な教育資源と関わりながらPBLを実践するモデルを示すとともに、学習成果をアウトプットし、価値づけする場を設定する。



(1) PBL（課題解決型学習）ガイドブックの作成

- ・PBLの考え方や学習過程を整理し、県内公立小・中学校等に配付する。
- ・発達段階を踏まえ、地域の方等と関わりながら進めるPBLを促進する。
- ・学校が育成したい資質・能力を明確にし、子どもたちが主体的・協働的に課題を発見し、解決する力を育成するモデルや実践事例を提示する。
- ・学校、企業、NPO法人等の多様な立場の方の意見を踏まえる。

(2) おかやま学びたい賞・フォーラムの実施（令和2年度から）

- ・地域を題材としてPBLを実施している学校の優れた取組を表彰し、県内に発信する。
- ・意見交流の場の設定や、フィードバックによる価値づけを行うことで、学習意欲の向上を促進する。

(3) 一人一台端末を主体的に活用した学びの推進

- ・実社会や実生活とつながる課題の解決に向け、ICTを活用して情報を収集し、整理・分析するとともに、表やグラフで表したりプレゼンしたりするなど、主体的にICTを活用する学習を推進する。

高梁中学校における PBL(課題解決型学習)の取組



【学校の概要】

- 生徒数: 284名(令和3年度)
- 学級数: 各学年3学級+特別支援学級3学級
- コミュニティ・スクールの導入(令和3年2月)
- ※5小学校から集まる。市内全体の中学生の約半分が通う。

高梁市立高梁中学校
校長 福原 洋子

PBL(課題解決型学習)スタートの経緯

○新学習指導要領の全面実施(令和3年度)に向けた教育活動の見直し

- ・3つの資質・能力の育成

 - 生きて働く「知識・技能」の習得

 - 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成

 - 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

- ・「社会に開かれた教育課程」の実現

 - 学校での学びを日常生活に活用したり、社会とのつながりの中で学習したりすることで、よりよい社会を創るという目標を達成

○コミュニティ・スクール導入を見据えた地域との協働による教育活動の推進

- ・高等学校で実施されている「地域学」につながる学習を総合的な学習の時間で実施

 - 義務教育最終段階で地域をフィールドとした学習に取り組むことの意義

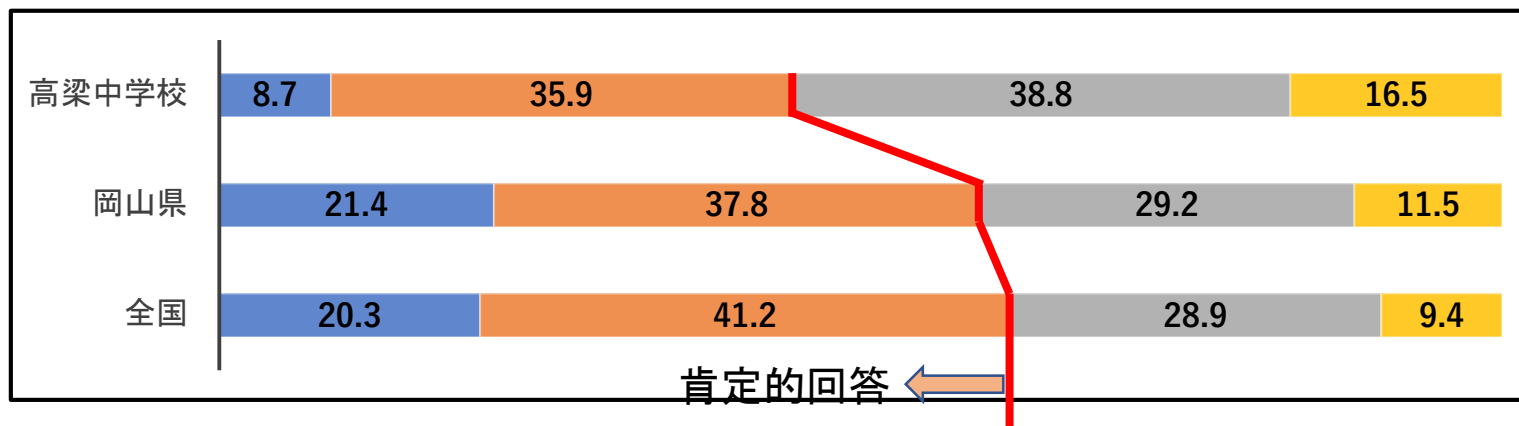
- ・コミュニティ・スクール導入で、より効果が上がる教育活動を実施

 - 「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」へ

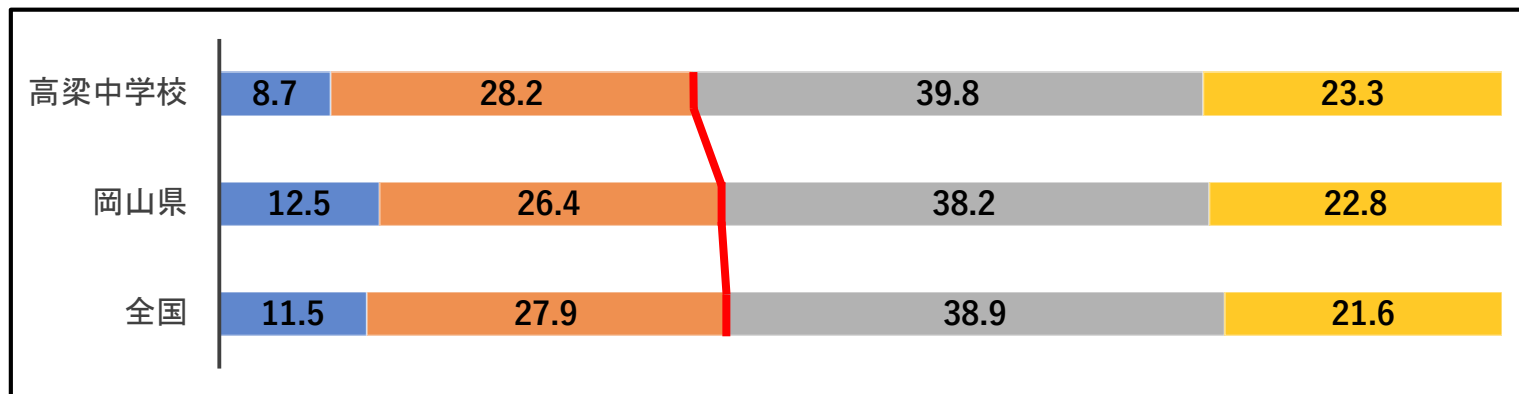
高梁中学校の実態

○平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査結果

(問)総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。



(問)地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。



○総合的な学習の時間の主な取組(令和元年度)

1年	宿泊研修 文化祭 ふるさと学習 職業調べ
2年	広島平和学習 文化祭 職場体験学習 高校調べ
3年	沖縄平和学習 文化祭 進路学習

↓
地域と関わる学習がない

「地域貢献プロジェクト」(第3学年)の取組

プロジェクトの目的

- ①各教科や学校生活で学んだことを生かし、地域課題の解決等に主体的・協働的に取り組む探究学習を通して、地域貢献について考える。
- ②社会に出た自分の姿を想像し、自分の適性や将来の可能性を考える。

プロジェクトの進め方

- ①団体・事業所等の課題意識や思いを聞いて、プロジェクトのゴールイメージを持つ。
- ②高梁市の現状を知り、効果的な方策を考える。
- ③地域の声を聞き、自分たちでアイデアを出し合う。
- ④事業所等に取組の成果を報告・提案し、評価してもらう。

※「プロジェクトを始める前の私」と「プロジェクトを終えた私」を比較し、自己理解を深める。

※自己評価と他者(団体・事業所等)評価を通して考える。

〈探究学習の進め方〉

①課題の設定



②情報の収集



③情報の整理・分析



④まとめ・表現

「地域貢献プロジェクト」(第3学年)の取組

○令和2年度 12団体との協働で19プロジェクトを実施

プロジェクト名	連携・協働先
空き店舗をなくし、にぎやかな商店街をつくるプロジェクト	栄町商店街振興組合
路線バスを利用したことがない人がバスを利用するようになるプロジェクト	備北バス株式会社
高粱の特産品を使った新商品を販売するプロジェクト	産業振興課
備中牛をPRするプロジェクト	江草牧場
小学生が中学校に進学する不安を解消するプロジェクト	中学校区5小学校
中学生の活動を報道するプロジェクト	吉備ケーブルテレビ
住みたいまちづくり・人口増加プロジェクト	高粱青年会議所
成羽美術館オリジナルスイーツを考えるプロジェクト	成羽美術館
さんじゅーろーをもっと有名にするプロジェクト	高粱市観光協会

○令和3年度 6団体との協働で8プロジェクトを実施

など

※前年度からの継続・発展・・・2プロジェクト(商店街の活性化、特産品の活用)

事例①「備北バスに1か月に1回のってもらおうプロジェクト」

【概要】

- ・備北バス⇒「路線バスの理解度を高め、バスの利用者を増やす方法」
- ・ターゲットを高校生に絞り、市内の高校(3校)にアンケートの協力を依頼。実態把握から解決策を提案。
- ・提案1:路線図をわかりやすく改善する。
- ・提案2:バス利用のメリットと吹屋をPRする情報を盛り込んだチラシを作成・配布する。



岡山イオンに行きたい!天満屋に行きたい!そんな時は・・・

そうだ!備北バスに乗って岡山に行こう!

行き(午前)

川上の人なら・・・川上バスセンター9:23発	➔	岡山駅へ・・・10:59着
成羽の人なら・・・成羽9:34発		天満屋へ・・・11:04着
落合町の人なら・・・ゆめタウン9:41発		
瀬深の人なら・・・瀬深10:08発		
東総社の人なら・・・東総社10:16発		

帰り(午後)

岡山駅発・・・17:25発	➔	川上の人なら・・・川上バスセンター19:02着
天満屋発・・・17:50発		成羽の人なら・・・成羽18:50着
		落合町の人なら・・・ゆめタウン18:43着
		瀬深の人なら・・・瀬深18:16着
		東総社の人なら・・・東総社18:08着


お得な往復券

で岡山からの帰りが半額になります!

往復料金

街頭⇄岡山市内
2,000円

井谷⇄岡山市内
1,280円



日本遺産に認定された
備中吹屋ふるさと村を観光しよう!
「ジャパンレッド」発祥の地〜弁柄と銅の町〜

定期路線(備北バス)
 「吹屋」行き 片道料金:800円
 高梁バスセンター ⇄ 吹屋

10:50発 → 11:48着
13:50発 → 14:48着
18:00発 → 18:58着

吹屋 ⇄ 高梁バスセンター

06:50発 → 07:48着(平日のみ運行)
07:15発 → 08:13着(土・日曜日・祝日のみ運行)
09:05発 → 10:03着(平日のみ運行)
12:45発 → 13:43着
15:45発 → 16:43着

高梁中学校 3年C組

地域貢献プロジェクトの取り組み

僕たちは、地域貢献の取り組みとして備北バスの利用者を一人でも増やすという活動をしてきました。
 備北バス株式会社の木村尚紀さんは、「利用者を増やすことは、会社内の人たちですのも嬉しい。だから君たち中学生の力を借りたい。」と、言っていました。それは僕たちにも嬉しいことだと思います。
 僕たちの願いは、このチラシを見て、一人でも多くの方が備北バスを利用してくださいことです。
 今後とも備北バスの利用をよろしくお願いいたします。

事例②「備中牛を広めようプロジェクト」

【概要】

- ・江草牧場⇒「備中牛の地元消費の拡大」
 - ・スーパーでのアンケート、授業参観日での保護者アンケートで実態把握。
 - ・提案:PRポスターとプレゼンを制作し、市役所とタイアップして広報する。
→農林課のHPとリンク
- ※「農業者の集い」に参加し発表(コロナで中止)

江草牧場



備中牛の魅力

江草牧場は岡山県高梁市備中町平川にあります。

標高 500mにある牧場。

きれいな空気や自然に恵まれた穏やかな環境。

生産者の江草さんは毎日優秀な黒毛和牛を育てています。

江草牧場で育てられた備中牛です。

購入可能店舗

・ポルカ天満屋ハッピータウン
中原町 1084 - 1
0866 - 22 - 0808
営業時間 9時～20時

・株式会社たにもとサカエ店
旭町 1335 - 7
0866 - 22 - 7201
営業時間 9時30分～19時

・江草牧場
岡山県高梁市備中町平川11457
0866-45-2908

統一された飼料と衛生的で健康的な環境で飼育され、日本各付協会による格付け評価が、3等級以上の特に品質の優れた黒毛和牛です。



ピンク色のお肉がおいしい
証拠です!!



この牛が目印!



9月23日(水) 江草牧場訪問



10月12日(水) 参観日

ポスター・写真でPR 主婦にアンケート



10月8日(木) ポルカ市場調査・市役所訪問・ポスター用写真撮影



「地域貢献プロジェクト」を終えて

○「地域貢献プロジェクト」を終えての生徒の振り返り

	活動前	活動後
A	成功できるかどうか心配	自分の担当を責任を持って行い、みんなと協力して成功させることができ、自分はこういう活動をするのが好きだと気付いた。
B	自己評価でわからない項目が8割以上	様々な活動を通して自分への理解が深まったり、地域への関心が持てるようになった。自己評価も明確にすることができた。
C	面倒で乗り気がしない	活動はやりがいがあって達成感がすごかった。楽しかった。
D	パワーポイントの作成や初めて会う人と話すことが不安	自分は思っていたよりきちんとできていることがわかった。人としてはまだまだ足りなかった。
E	とても楽しみ	街頭アンケートやポスターづくり、プレゼン作成を通じて自分の得意・不得意がわかった。新たな得意分野も見えてきた。
F		中学生としては、大人と同じように接してもらったので、貴重な時間だった。

○協働先の団体・事業所等

参加して良かった
100%



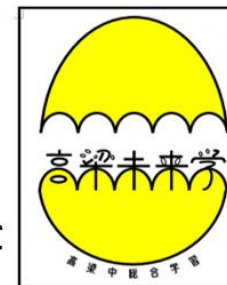
〈1年後の声〉

自分たちで行動したり、考えたりするときの中学生のエネルギーはこんなにあるのだと驚いた。課題を解決していく中で自分たち中学生にできることは想像以上にたくさんあると感じた。ぜひこの気持ちを今の中学生の皆さんにも体感してほしい。

令和3年度の進化

『高梁未来学』

～高梁市で学ぶ・自分の未来を考える～



教科等で学んだことや学校生活で身に付けた力を生かしながら、地域を学習のフィールドとし、地域と協働して地域の未来と自分の将来・生き方について考える。

第1学年

「発見！高梁スピリット！」

地域のために活動している人を
『知る・伝える』

地域の発展のために行われている（行われてきた）活動を取材し、いろいろな人に支えられて社会が成り立っていることを知り伝える。

第2学年

「高梁ジョブ・リサーチ」

地域で職業や仕事を
『体験する・探究する』

職場での体験を通して、働く意義ややりがいを実感するとともに、自らが設定した課題を体験学習や様々な大人との出会いの中で探究する。

第3学年

「地域貢献プロジェクト」

地域の課題に向き合い
『解決する』

地域の課題に対して地域と協働しながら情報等を収集・分析し、課題解決に向けて提案したり、活動を行ったりする。

生徒等の変化

○令和3年度全国学力・学習状況調査結果

(問)総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。(肯定的回答)

平成31(令和元)年度

令和3年度

44.6%
(県:61.2%)



73.9%
(県:70.9%)

(問)地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。(肯定的回答)

平成31(令和元)年度

令和3年度

36.9%
(県:38.9%)



54.6%
(県:45.4%)

○令和3年度教職員アンケート(R3.12実施)

(問)様々な取組で非認知能力(目標を達成する力、他者と協働する力、自分をコントロールする力)がのびてきていますか。(肯定的回答)

74%

(問)地域との連携・協働によって、学習活動が充実してきていますか。(肯定的回答)

91%

「高粱未来学」の評価

—育成する資質・能力のルーブリックの作成—

資質・能力		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
知識・技能	社会的事象に関する知識・理解	社会で起こっている出来事を理解できる。	課題に関する基礎的な知識を身に付けている。	学習した知識を活用して課題を理解しようとしている。	地域や社会の課題について教科等の知識を結び付けより深く理解することができる。	学習を通して得た知識を次の課題解決に用いることができる。
	情報収集力	情報を収集し、整理することができる。	情報を収集し、整理し、分析することができる。	情報を収集し、整理し、分析し、活用することができる。	情報を収集し、整理し、分析し、活用し、創造することができる。	情報を収集し、整理し、分析し、活用し、創造し、発信することができる。
表現力等 思考力・判断力・	論理的思考力	テーマについて考えることができる。	課題について考えることができる。	課題について考えることができる。	課題について考えることができる。	課題について考えることができる。
	課題解決力	課題を解決することができる。	課題を解決することができる。	課題を解決することができる。	課題を解決することができる。	課題を解決することができる。
	対話力	自分に伝えている。	自分に伝えている。	自分に伝えている。	自分に伝えている。	自分に伝えている。
	表現力・発信力	表現している。	表現している。	表現している。	表現している。	表現している。
学びに向かう力・人間性等	主体性・積極性	集団をリードしている。	集団をリードしている。	集団をリードしている。	集団をリードしている。	集団をリードしている。
	協働力	他者と協力している。	他者と協力している。	他者と協力している。	他者と協力している。	他者と協力している。
	メタ認知力	自分自身を振り返ることができる。	自分自身を振り返ることができる。	自分自身を振り返ることができる。	自分自身を振り返ることができる。	自分自身を振り返ることができる。
	社会参画力	地域や社会に対して関心を持つことができる。	地域や社会の課題等に関心を持つことができる。	地域や社会をより良くするための考えを持つことができる。	自分と地域や社会とのつながりを自覚し、地域や社会の一員として貢献しようとする意欲を持つことができる。	自分のことを生かして積極的に地域の活動に参加し、進んで地域や社会の課題解決に取り組もうとしている。

○第3学年「地域貢献プロジェクト」における課題設定

現 状 **大人が直面する課題意識を共有 → 解決へ**

↓

生徒自身が課題を発見 → 解決へ

令和3年度の1年生が3年生でプロジェクトを実施する際、自ら課題設定できるように学習を積み上げていく。

今後に向けて

○「高梁未来学」を核にした計画的な課題解決型学習(PBL)の実施

- ・ルーブリックの活用による資質・能力の確実な積み上げ
 - ゴールイメージの共有(教員間、教員と生徒)
 - 学年ごとに途切れない指導
 - 小学校、高等学校とのつながり
- ・各教科の学びを生かす視点

○課題解決型学習(PBL)の評価

- ・ルーブリックを活用した評価

○課題解決型学習(PBL)を組み立て実践する教員の指導力の向上

- ・探究的な学習の進め方の理解と実践力
- ・外部との適切な連携・協働(コミュニティ・スクールの積極的活用も)
- ・ICTの効果的な活用